記者懇談会の記録

日　時	令和 5 年 9 月 25 日（月）15：30～15：50
場　所	岩見沢市役所 3 階 会議室 3-1・3-2
記者数	7 人

1　デジタル社会実現に向けた取り組み～自動運転 EV バスの公道走行評価など地域課題解消に向けた検証～

（市長）

はじめに、自動運転 EV バスの公道走行評価など地域課題解消に向けた検証についてお知らせいたします。

昨年 12 月に、岩見沢市内、北村地区で初めて実施した「自動運転 EV バス」の走行実証ですが、今年も関係企業等と協調しながら 10 月に実施いたします。今回は、2 つのルートの走行を予定しておりまして、配布資料にありますように、交通密集地域として「JR 岩見沢駅と北海道教育大学岩見沢校との間」の往復ルートと、住宅地域として「北村地区」の循環ルートを設定しています。

基本的には、両ルートともレベル 3「条件付自動運転」として、ドライバーが同乗する形をとりますが、北村側での実証の際には、今年 4 月に施行の改正道路交通法により認められたレベル 4「特定条件下における完全自動運転」を見据えて、遅延のない通信環境による遠隔監視の実証を予定しております。

今回の実証の目的ですが、ICT やデジタル技術を用いた「市民生活の質の向上」という当市が掲げるビジョンの具体化として、自動運転バスが移動交通手段の確保のための手法のひとつとして機能するかを評価検証するとともに、北海道大学 COI-NEXT と協調しながら、走行する車両を活用して教育や健康に関連するサービスを出先でできないかといった検証も予定しています。

なお、事前予約制となりますが、一般市民の方にも体験試乗いただく予定であり、この後、市ホームページにて予約方法等のご案内をする予定としております。

＜質疑応答＞

（北海道新聞）

今回のこの二つのルートそれぞれ距離はどれくらいになるのでしょうか。

（市長）

まず交通密集地域、岩見沢駅から北海道教育大学の間ですが、片道 2.2 キロ、往復で 4.4 キロ、時間は片道 30 分、往復で 60 分を予定しています。

それから住宅地域の走行ルートとして設定する北村地区ですが、走行距離は巡回ですので、1 周 3.2 キロ、運行時間は 1 周 50 分を見込んでいます。

（北海道新聞）
交通密集地域の走行ルートの内の市民会館というのは、ここは乗り降りができるのでしょうか。
（市長）
市民会館は乗り降りできないので、始点と終点だけです。
（北海道新聞）
念のため確認ですが、地図上でバス停マークがついていますが、ここで乗り降りはできないということでよろしいですか。
（情報政策部長）
一旦止まりますが、全部予約制なので、始点と終点だけという話になると思います。そこで少し余裕があれば可能かもしれませんが、一応ご案内としては、駅からと、教育大からの乗車、としようと思っています。
（北海道新聞）
空いていたら乗せることもありうるかもしれない、と。
（情報政策部長）
かもしれないですが、逆にできると言うと市民の方が混乱するかもしれないので、できるだけ駅と、教育大と、とご案内しようと思っています。
（北海道新聞）
基本的にはその二つと。わかりました。
（北海道新聞）
もう一つ市長に、こちら、市民にも乗ってもらうということで、新しい技術でもありますので、どういったところを体感してもらいたいという想いが、もしあればお聞かせください。
（市長）
今回の自動運転バスは、時速 18 キロで走行するのですが、その安全性と快適性と、あるいは普通の乗用に比べれば時間はかかりますけれども、その中で、自動運転ということの今後の技術に向けていろいろ感じていただきたいなと思っています。
（北海道新聞）
DX というところを推進していますが、そのうちの一つということで。
（市長）
はい。そのうちの一つになります。特に自動運転バス、EV バスですので、北村地区で行っているナノグリットの地産地消型の発電システムを使ってできた電気で充電をして、それで走行も支障がないということについては、昨年の 12 月の実証でも確認されておりますので、そういったことの組み合わせも含めて DX・GX の取り組みの一つ、将来に向けた取り組みの一つと考えています。
（NHK）
こちらの実証実験の背景で、いくつかの背景が挙げられていますけれども、一番大きいのは人

手不足の部分なのでしょうか。路線バスの運転手が確保できないとか、この背景の中では一番大きなポイントとして考えられているところが、もしあれば教えてください。

（市長）

公共交通は今、現実どのような形で維持しているかというと、一定の赤字については市町村がそれぞれ負担をして、郊外線、都市間も含めて、市内線も含めて維持をしているというのが実情でして、その中で特に運転手不足というのが、事業者にとっては非常に大きな課題になってきて、札幌市内でも運転手不足によって、やはり路線を一定程度見直す、あるいは縮小する、便を減らす、そういったことも出てきている状況になりますが、そのことも踏まえて、やはり持続的な交通体系のそのうちの一つの手法として自動運転バス、冬の問題もありますが、やはり実装に向けた実証と、いうようなことで考えています。

（NHK）

今回、実証期間が来月の 20 日までということですけれども、この実証期間を踏まえたその実装は、何か大体いつ頃ぐらいというのは考えていらっしゃいますか。

（市長）

それはまだ具体的なスケジュールというかマイルストーンは決めてはいないのですが。今回レベル 3 なのですが、レベル 4 の状態を目指しての実証になるので、その有用性ですとか安全性ですとか、あるいは有効性、そういったものも併せて実証して、今後に繋げていきたいなというふうに考えています。

（HBC）

10 月 6 日関係者試乗ということですが、例えば第 1 便に市長が乗ったりするのでしょうか。

（市長）

10 月 6 日は記念式典の日なので、多分私は乗らないと思います。その後は機会があれば乗るかもしれませんが、できるだけ一般の方の試乗の乗車を優先したいなと思っています。私自身は北村での実証のときに搭乗していますので。

（NHK）

関連して、10 月 6 日のこの関係者試乗というのは、もう全くいわゆる一般での予約の方はお一人も乗らない予定ということなのでしょうか。

（市長）

そうですね。10 月 6 日は関係者だけということで。

（情報政策部長）

この事業に市内の企業さんで協力していただいた方々を中心に、と考えています。

（市長）

報道の皆さんは何かそういう機会は、ぜひ関係者のところでということですね。

（NHK）

取材自体はこの実証本番①とかもできるということでいいですか。

（情報政策部長）

はい。取材にいらっしゃる日時をお知らせいただければと思います。

2　開庁 140 年・市制施行 80 周年記念式典について

（市長）

お配りしている資料には、明治 17 年 10 月 6 日岩見沢村設置と記載しておりますが、岩見沢の歴史は、戸長役場ができる前に鉄道が開通し、当時の北海道開拓使の勧業課の岩見沢派出所ができたのが、明治 16 年であり、そこから数えて、本年は開庁 140 年、昭和 18 年 4 月 1 日の市制施行から 80 周年の節目の年となっています。北海道教育大学岩見沢校も学校創立から今年は 100 周年、更に加えて陸上自衛隊岩見沢駐屯地も今年創立 70 周年と、今年はメモリアルイヤーということなのですが、この度の記念式典については 5 月の記者懇談会でも一度お知らせしておりましたが、10 月 6 日にまなみーる市民会館で開催する記念式典の内容が決まりましたので、改めてお知らせさせていただきます。

まず式典の内容ですが、教育大学岩見沢校の学生による国歌独唱や、ご来賓の方からの御祝辞、市政功労表彰受章者のご紹介ということで、記念式典に先立って、今年の市政功労表彰式を行いますので、そのご紹介と、今回の記念式典に合わせて結成された、140 名の特設合唱団による交響詩岩見沢の合唱のほか、教育大学岩見沢校の学生吹奏楽団、スーパーウインズと言いますが、その皆さんによる記念演奏会などを予定しており、約 450 名のご来場を予定しております。

また、当日は、事前にご案内している方以外に、一般の方でも参加が可能ですので、多くの方にご臨席いただき、節目の年を祝いたいと考えています。

次に、「いわみざわ芸術文化・スポーツの祭典」についてです。

本年は、市とともに「芸術文化・スポーツのまちづくり」に取り組んでいただいている北海道教育大学岩見沢校も創立 100 周年を迎えていますことから、市と大学とが連携して、「観る・聴く・動く」をテーマに、展覧会や演奏会、スポーツイベントなど、芸術文化・スポーツに関する記念イベントを市内各所で開催しています。

祭典の内容につきましては、配布しておりますフライヤーなどをご確認いただければと思いますが、ぜひこの機会に、まち全体を周遊していただいて、お楽しみいただきたいと考えています。

最後に、先ほども少し触れました、今年の市政功労者の表彰についてですが、表彰式は、記念式典に先立ち、関係者により行います。受章者のお名前とご功績は、別添資料のとおりでございますが、自治功労表彰で 9 名、自治社会福祉功労表彰で 1 名、社会福祉功労表彰で 4 名、保健衛生功労表彰で 1 名、産業功労表彰で 3 名、教育功労表彰で 1 名の計 19 名の方が受章されます。

なお、先ほどお話ししましたとおり、表彰式のあと式典の中で、受章者ご本人と、その功績などを紹介させていただきます。

資料の説明は以上となりますが、教育大学岩見沢校が有する芸術文化・スポーツに関する専門性や優秀な人材は、岩見沢市の貴重な財産であり、お互いの節目の年に、連携して周年記念事業

を実施することで、芸術文化・スポーツが、市民の皆さまの暮らしにより深く根付いて、地域の魅力の一つとして広く定着していくよう、引き続き、取り組んでいきたいと考えています。

＜質疑応答＞

特になし

6　その他記者から質問

＜質疑応答＞

特になし

（注）この記録は、重複した言葉遣いや明らかな言い直しがあったものなどを整理した上で作成しています。（作成：総務部秘書課広報係）